

日本知財学会第 10 回年次学術研究発表会 セッションレポート

1. 作成者	知財 PeCo 鳥居直美（積水化学工業株式会社） 久米川梓（エレコム株式会社）
2. テーマ	知財人財育成研究分科会セッション 「“育つ側” から見た知財人財育成 ～2012 年春季シンポジウムのフォローアップ討議」
3. レポート	<p>今回の議論では、人が「育成する・される」という観点ではなく、「自ら育つ」という観点から、人が育つためにはどのようなことが重要であるか話し合われた。</p> <p>4名のパネリストが、自身がどのように育ってきたか、また、育つためには何が必要かを、自らの経験をもとに発表した。具体的な経験は各者各様であったが、人が育つために重要な事項として、以下の2つが共通して挙げられた。</p> <p>1つは、育たないことの言い訳を他者に求めず、「自ら育つ」という信念を持つことである。最近では、「教えてもらう」という意識ばかりを持ち、「自ら育つ」という意識が欠如している者も散見されるが、まずは自ら学ぶという欲求を持つことが必要である。</p> <p>2つめは、「育つ」ための環境である。人を育てるということは、工業ではなく農業に近いものである。つまり、作物（人）を育てる際には、その風土（環境）を十分考慮しなければならないのである。人を育てる者は、その人がどのように育ちたいか、またその人をどのように育てたいかを捉え、そのための環境を整備していく役目を負っているのである。</p> <p>今回の議論が非常に大きな意味を持つのは、「育成する・される」から「自ら育つ」という観点の変更により、「誰もが育たなければならない」という、人が育つための根本を示唆した点にある。若いと言われる者が「自ら育つ」という信念を持たなければならないのはもちろんのこと、ある程度育った者や人を育てる者もその意識を持ち続け、育たなければならないのである。</p> <p>環境の変化がめまぐるしい昨今、どのようなことが起きても対応できるよう、誰もが育たなければならない。そして、人が「育つ」環境をどう支援していくかが、今後の課題である。</p>